

平成29年度第3回千葉県博物館協議会会議 議事録

日 時：平成30年3月9日（金）10：00～12：00

会 場：千葉県立中央博物館 会議室

出席者：委員
岡本 東三（議長） 常光 徹（副議長）
中原 章子 柳谷 昌代
鵜澤 登美子 細井 和美
高橋 正 米本 信

博物館
中央博物館長 鎌田 操
美術館長 田村 俊雄
現代産業科学館長 平賀 洋一
関宿城博物館長 谷鹿 栄一
房総のむら館長 永沼 律朗
(他14名)

文化財課 副主幹 大内 千年

- 1 開会
傍聴人なし
- 2 館長挨拶（千葉県立中央博物館 鎌田館長による）
- 3 館内視察（春の展示 ところ変われば備えも変わる あなたの街と自然災害）
- 4 協 議
【岡本議長】
千葉県立中央博物館から学校の利用促進方策について説明をお願いしたい。

【中央博物館】
説明

【議長】
千葉県立中央博物館の学校の利用促進方策について御意見をいただきたい。

【委員】

本日展示を見させていただいたが、素晴らしかった。とくに、災害を起きて当然ものとして捉え、自分の住んでいる土地の特徴を知ることが防災につながるという視点が良かった。子供たちにも教えていく必要があると思った。うちの学校では5年生が災害についての総合学習を行っているので、展示を見せていただくと、子どもたちの学習が深まると思う。ただ、小学生にとってはすこし難しい内容なので、小学生にあった学芸員の説明やパンフレットがあるとより勉強になる。

また、色々なところから資料を集めて展示しているところを見て、テーマに沿ってネットワークを使いながら資料を集める博物館の役割を感じることができた。

学校利用に関しては、千葉市にあるということを見ると、千葉市科学館との競合があると思う。千葉市科学館ができる前は、生徒をつれて何回か中央博物館に来たことがあった。しかし、科学館は1年に1度も行かないと連絡が来るので、千葉市内のほとんどの学校は科学館に行っている。その影響で中央博物館の利用が減っているということもあるのではないかな。千葉市科学館と中央博物館は展示内容が違うので、その部分をもっと明確に周知すると興味・関心と呼べると思う。中央博物館で行っている夏休みの自由研究相談会を、千葉市科学館でもやっており、そういったことについても、内容の違いを明確にする必要があると思う。

また、場所的に遠い学校は見学の計画をすることが難しいというところもある。千葉市の学校以外はなかなか難しいのではないかな。

【議長】

総合学習で災害の問題を取り上げているそうだが、中央博で災害の展示が行われたらすぐに見学に行くというような、機動的な対応はできるのか。

【委員】

一年がかりで計画をしているので、なかなか難しい。年度初めに相談するということはできるかもしれない。

総合学習の参考になるような、資料リストや、学芸員のリスト、というよう

なものがあれば、より活用しやすいと考える。

【議長】

学校側から博物館を見た印象を中原委員にもお伺いしたい。

【委員】

本日の説明で様々な取り組みをしていることが良く分かった。その中で、高校生をどのように連れてくればよいのかを考えていたが、高校には理科部会や歴史部会という各校横断的な研究会があるので、それとタイアップして高校生対象の講座をやるということも考えられる。

アクセスの点に関していえば、高校生目線だと交通費は大きい問題である。県の持っているバスなどがあれば、使えないか。

うちの学校では東京情報大学と高大連携を行っているが、週一で大学のバスを高校に出してくれており、学外講座の参加に役立っているので、県でも出来ないか。

また、県立美術館などは、学芸員講座を行い、増加単位として高校の卒業単位に認めている事例もある。そういったことを含めて、高校教育とリンクしていくことが可能なのではないか。

【議長】

委員の高校での、歴博との連携について内容を伺いたい。

【委員】

うちの学校の例では、総合学習の時間を活用して1年生が全員歴博に行き一日勉強してくる、ということをしている。

先日歴博を見学する機会があり、改めて素晴らしい施設だと感じた。同じように、中央博物館を始め県立博物館の施設は素晴らしい。高校側がもっと知らなければいけないと感じる。

また、インターンシップについての説明があったが、関連してお話したい。先生方から、インターンシップの際に取り交わす文書が非常に煩雑であるという話がある。担当者の負担となっている現状があるので、簡単な様式になれば、

敷居が低くなるのではないかと思います。

【議長】

インターンシップの件は、県庁で募集して割り振られた人が博物館に来るというシステムだと思うので、書類に関しては県庁の様式であると考えてる。

【中央博物館】

そういうことではあるが、同じ行政がやっていることである。利用者から見た規制緩和の意見は発信しないと、変わっていかない。県民のためにあるのが行政なので、伝えていきたいと思う。

【議長】

学生がインターンシップに応募する際、博物館でインターンシップをしたいという希望が出来るのか。

【中央博物館】

各受入れ先の情報はホームページで公開されており、それを参照して学生が応募の際に希望を出す。募集終了後、希望をもとに割り振りが行われる。

【議長】

他にご意見はないか。

【委員】

放送博物館では、全国の博物館から依頼を受けて、収蔵品を持って行って展示するというを行っている。放送博物館は東京にあるので、全国から見学に来ることは難しい。そこで各地の放送局に持って行って展示するという試みを行っている。

例えば、車を確保して、ワンセットの展示を置いて、学校などへ行ったりするなどということ積極的にやってみたらどうか。外で活動を周知していくということが大事だと考える。

また、放送体験学習というものが小学校五年生を中心にあり、スタジオパーク内に場所をとって、放送についての様々なことを体験するというところを行っているが、近年周知が浸透してきて、毎年かなりの数お申込みをいただいている。何をやっているのか、ということを知ることが大切である。色んなツールを使って積極的に周知していくということをするべき。

外に出ていくという意味でいうと、出前授業も積極的に展開すべきと思う。

【委員】

私も外に出ていくという事が必要だと考える。うちの大学だと模擬講義のリストなどを用意しており、インターネットで配信し、近隣の高校には配っている。リストを配布すれば、興味のある先生は見ていただけると考える。ただ、そのリストにおいて、人気があるコースと、そうでないコースがはっきりしてしまうが、人気があるところを伸ばしていければよいのではないかと考えている。

ボランティア団体をお持ちだと思うが、そのような方が外に出ていかれることも考え、ボランティアへの教育を行い、小中学校の現場で先生と一緒に活動するというやり方もあると考える。

また、先程説明の中で、公平でなければいけないという言葉があったが、実施の方針が明示され、公正に行われていけば良いのではないかとと思う。

【議長】

中央博物館でのボランティアの状況はどうなっているのか。

【中央博物館】

展示室を解説するボランティア、収蔵庫などで標本の整理などにあたるボランティアなどが存在するが、外に出て説明しに行くボランティアというのは今の所ない。

【議長】

説明の中でも、博物館実習の受け入れ先やアウトリーチの実施先において不公平がないようにとの説明があったが、それぞれ、何らかの基準を設けている

のか。

【中央博物館】

博物館実習については基準がある。具体的には、申込者の住所か帰省先住所が県内であること、ないし申込者が県内の大学に在学していること。また、中央博物館の専門分野である自然誌、人文系を専攻とする者。大学1校あたり原則として1名の受け入れ、といった基準がある。

学校に対しての講師派遣については、受け入れ件数などの制限は設けていない。

【委員】

小学校の先生方は必ずしも理科や社会の専門教員ではない。また、中学校でも理科の教員は、教えることが大学で学んだ範囲と異なる可能性がある。そういったことを踏まえて、現場のニーズをリサーチすることはあるか。

【中央博物館】

団体見学等でいらっしゃった先生方の話をうかがう、あるいは教職員研修などで生の声をうかがう、といったことはしている。

【委員】

助成金などをもらって教育プログラムを開発するなどできないものか。

【中央博物館】

以前、JSTから県がお金をもらって、実験、実習が苦手な先生方を補助する人員を小学校に配置するなどしていた。

また、博物館では、「先生のための中央博活用ガイド」という冊子を作っている。この冊子では小学校の3～6年を範囲に、学年、科目ごとに学ぶ範囲と関わる展示物について、中央博物館での所在が分かるようになっている。なるべく学校の先生方が使いやすいように工夫はしているが、周知に課題があると考えている。

例えば、アウトリーチについては、企画展、季節展等に関連して、一般の商

業施設でのイベントを行うことで幅広い層への周知を試みている。また、その他にも県民プラザ、公民館、図書館などへの出張展示も行っているが、これらは一般向けの周知活動である。特に学校に対してどのような活動が出来るのか、という部分に課題があると考える。

【委員】

千葉市内など博物館に近い学校に対してチラシを配っているのか。利用状況も知りたい。

【中央博物館】

展示やイベントごとに近隣への周知は行っている。近隣の小学校、とくに星久喜小学校などは頻繁に来てくれている。

【委員】

科学館でも小学校を呼び込むのに努力をされている。県だと対応は難しいかも知れないが、科学館では千葉市内でその年に来館していない学校全てに電話をかけているようである。

【中央博物館】

学校の立場に立って、どのようにしたら使いやすくメリットのある博物館になるのかを考えているところである。

【委員】

貸出キットをみると、教科と直接対応させることは難しい。総合学習のなかで、調べて専門家に聞く、ということでの活用は可能だと考える。

夏休みの自由研究については親御さんも悩んでいる。中央博物館の自由研究相談会も、その内容を発信するとアピールになる。

【委員】

夏休みの自由研究は親御さんの関心が高いので、近隣に限らず、日程を早めに周知すれば、全県的に参加者を集めることが可能と考える。

【委員】

博物館からの説明を聞いて、取り組みへの努力を感じた。

公民館などにチラシを置くこともあると思うが、公民館の主要な利用者は高齢者である。公平性を考えながら学校関係にアピールするには、例えば年度ごとに千葉県内でエリアを絞りつつ、小学校、中高生など対象も分けながら、重点的にチラシを送るという事も考えられる。

パンフレットの部数が多くなり大変だと思うが、白黒のものでも生徒に直接届けばアピールは出来ると思う。チラシにも小学生向けのチラシというのがある。チラシを見て行きたいと思えば、親に行きたいと言うことが出来る。一般向けのチラシとは別の、小学生や中高生にターゲットを絞ったチラシがあって良いと考える。

【議長】

ホームページでの発信等について、現状を聞きたい。

【中央博物館】

お手元にある平成29年度行事案内を御参照いただきたい。この行事案内には自由研究相談会などの情報も載っており、県内各地域の教育事務所に行き、校長会で説明、配布をさせていただいている。しかし、本館ほか三つの分館などもあるので、情報が多くなってしまう部分がある。御指摘のように、子どもたちが見て分かるような案内の仕方が考えられるのかもしれない。その他にも、図書館、公民館、地域振興事務所などに配布しているが、利用者目線での改善点があるのではないかと考える。

また、ホームページでは逐次、展示やイベントの情報だけでなく、研究員の成果や、テレビ番組への出演などの情報発信をしているが、こちらも利用者から見てどのように見えるのか、という点が気になっている。

【委員】

特別支援学校に対しても広報をかけていただきたい。また、特別支援学校の招待日などの設置もしていただくとありがたい。

盲学校、ろう学校など様々な学校があり、その中には知的興味関心が高い子どもたちがおり、博物館という空間で本物を感じるということは、すべての子どもたちにとって良い経験であると考えます。寝たきりで何も話せない子どもたちでも、本物を感じる事が出来る。

特別支援学校には様々な団体が来てくれるが、学校内の空間だけではなく、博物館という空間に身を置いて感じるということが大切だと考える。特別支援学校が来館すると、解説をしてくれるなどの日を設けていただけると、利用が広がるのではないかと。

【中央博物館】

千葉盲学校に対して、3Dプリンタで作成したクジラの縮小骨格模型や、剥製をさわらせながら学習する試みを行っている。

そのほか、さまざまな障害を持った子どもたちに使ってもらっている。

【委員】

障害をもった生徒を水族館に連れて行ったことがある。

最初は分からないのではないかと思われていたが、現地では母親とだけ分かる会話で興味を表し、学校では見せない表情を見せたことに大変驚き、本物を見せるということの大切さに気付かされた。色々な障害をもつ子どもたちがいるが、身体の中で感じ取れると思うので、ぜひ支援学校に声をかけていただきたい。

【副議長】

開催中の展示について、足元からリアルに災害への想像力を膨らませていく、という着眼点が非常に面白かった。

毎回感じることであるが、大変試行錯誤をされていると感じた。ただ、現実的には人員も限られていると考える。館として、1年間スタッフで出来ることを実行していくということが大事なのではないか。中央博物館は全国的にも良く知られた調査研究機関でもある。多忙になると、創造的な調査・研究のための時間の確保が心配になる場所である。実際には、事務量が増えるなか、行うべきことの精選という観点も必要なのではないか。

また、学校からくるということになると、学年ごとの同年齢の集団になりがちであるが、博物館という場を通して異年齢間交流の場が模索できると面白いと考える。子どもたちが成長していく段階で、人と人との距離のとり方や人間関係のバランスは異年齢間交流の中で身につけていくことが多いと感じる。将来的にそのような場としての博物館という可能性があれば、興味深いと考える。

【議長】

学校教育と社会教育の壁というものはある。博物館を見学することも学校教育であるという認識の根本を変えてもらわないと、学校から外へでて行く機会を作ることが難しいのではないか。千葉県の教育委員会が、社会教育を取り込んだ学校教育というものがどうあるべきか、というところをフォローしていかなければならない。個々の学校の問題にしてしまうと、なかなか出ていけないということになる。

文化財課からも御出席いただいているので、御意見を伺いたい。

【文化財課】

まず、教員の研修先として博物館を活用している。また、年度当初における校長会等での博物館の利用推進を訴えているところである。学校のカリキュラムの中で博物館を活用する方法については、「授業で使える学習キット」のガイドを作成し配布しているところであるが、利用促進について引き続き検討していきたい。

【議長】

学校教育と社会教育というのは縦割りになっており、その壁を崩せないところに問題がある。社会教育も含めた教育という位置づけがなされる時が、将来来ると考える。

【委員】

どこの館に行っても、誠実によく事業を行われていると感じる。

ただ、外からだと事業効果は数値でしか測られない面がある。限られたスタッフのなかで順次進めていけばよく、良い事業をされることを願う。

【委員】

参考になるか分からないが、ミュージアムパーク茨城県自然博物館は以前人がまばらな印象だったが、最近非常に人が増えたように感じた。何が変わったのかと考えたときに、人が変わったように思う。博物館も変わるときにはがらっと変わるものだと感じた。

また、3月の2週目にバス見学につれていく、ということをしている。日付がちょうど3月11日で、行き先が大洗の水族館である。津波の被害を受けているところだったので、バスで連れて行くにあたって、様々な年齢の子どもたちに、バスの中でどういうことを言えばいいのか、ということをお目撃の展示を見ながら考えていた。

子どもたちには、ある程度の現実を見させるのは良いことだと考える。

例えば、現代産業科学館で以前エコ・クッキングをやってもらったときに、体験を通して科学は面白い、という反応があった。一人の子は絶対科学者になる、と言っていた。体験学習は子どもにとって大切なことである。これからも頑張っていたきたい。

【議長】

時間になったので議事を終了し、事務局に進行をお返しする。

5 諸連絡 次回案内等

6 閉会